

故事成語 — 吳越同舟

善く兵を用ゐる者は、譬えば率然の如し。

率然は、常山の蛇なり。

其の首を撃たば則ち尾至り、

其の尾を撃たば則ち首至り、

其の中を撃たば則ち首尾俱に至る。

敢へて問ふ、

「兵は率然の如くならしむべきか。」と。

曰はく、

「可なり。夫れ呉人と越人と相惡むなり。

其の舟を同じくして済るに当たりて、

風に遇はば、

其の相救ふや左右の手の如し。」と。

〈『孫子』より〉

うまく軍隊を使う者は、たとえるなら率然のようなものである。

率然とは、常山にいる蛇のことである。

その頭を攻撃すると尾が助けに来て、

その尾を攻撃すると頭が助けに来て、

その胴体を攻撃すると頭と尾がともに助けに来る。

あえて問う。

「軍隊を率然のようにさせることができるか。」と。

答えて言う。

「できる。そもそも呉の国の人と越の国の人とは憎み合っている。

同じ舟に乗り合わせて渡るときに、

強風に遭つたら、

そこで助け合う様子は左右の手のような関係である。」と。